

4. ライフライン機能障害と生活困窮度の分析 ライフライン機能復旧の記録は各事業者から出されている¹⁾が、世帯レベルでの状況を把握するため「給水（通常水圧）」と「ガス」の復旧期間のクロス集計を該当者数5人ごとのコンター図で示したものが図4である。「ガス」復旧の方が遅れたケースが多いこと、いずれか一方が無被害であったケースもあったことがわかる。本研究では問1～問4の各項目間のクロス集計による分析を行ったが、紙面の都合上、主に「入浴」と「通勤」の復旧期間と困窮度を中心とした結果を掲げる。図5と図6はそれぞれ「給水」および「ガス」と「入浴」の復旧期間の関係をコンター図で示したものである。図4の傾向を反映して単一のライフライン機能障害で説明しきれない部分が目立つ。一方、「給水」と「ガス」の遅い方の復旧期間を横軸とした図7では、完全相関に近い関係となっている。「食事」については「入浴」と同様に「給水」と「ガス」の遅れた方に支配される傾向が見られたが、「用便」と「洗濯」については「給水」とほぼ完全な相関関係にあることがわかった。図8は「入浴」の復旧期間と困窮度の関係を示す。機能回復の遅れとともに困窮度が増す傾向がわかるが、特に地震後約2週間を経過した2月上旬に「非常に困った」が急増していることが注目される。また図9は「通勤」の復旧期間と困窮度を示す。高い困窮度を示しているのは、JR在来線の全線開通と国道2号、43号線の規制が緩和された4月上旬に通勤が回復したグループと、阪急や阪神などの不通により4月下旬以降もなお通勤が正常化していないグループであると推察される。図10、図11は「道路交通」および「鉄道交通」の困窮度と「通勤」の困窮度の関係を示したものである。いずれも高い相関関係が認められるが、「鉄道交通」の方が関連が明確に表れていることがわかる。

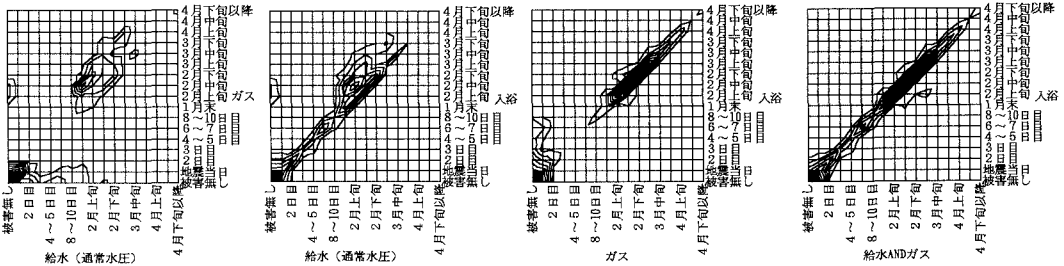


図4 「給水」と「ガス」の復旧期間 図5 「給水」と「入浴」の復旧期間 図6 「ガス」と「入浴」の復旧期間 図7 「給水 AND ガス」と「入浴」の復旧期間

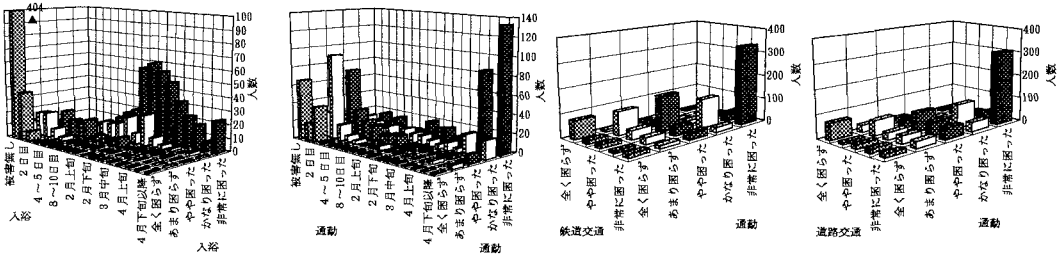


図8 「入浴」の復旧期間と困窮度 図9 「通勤」の復旧期間と困窮度 図10 「通勤」の困窮度と「鉄道交通」の困窮度 図11 「通勤」の困窮度と「道路交通」の困窮度

5. おわりに 本稿では一次集計結果の一部を報告したが、今後、ライフライン依存形態などの生活様式や災害対応行動を考慮した層別データによる考察を行うとともに、多変量解析による分析を行う方針である。最後に、アンケート調査にご協力いただいた支部会員の皆様と、調査研究委員会関係各位に感謝いたします。

【参考文献】1) 例えば、大阪ガス（株）広報部：がす燈震災特別号「阪神大震災 ガス復旧の軌跡」、1995。